

第4回交流研究会 会議録

日時：平成19年2月24日（土） 11時～15時30分

会場：国民宿舎奥浜名湖（浜松市細江町）

出席者：三遠南信地域連携センター

STいとう

奥浜名湖観光連絡協議会

三遠南信アミ



1、「地域づくり南信州フォーラム」参加報告

開催日：平成19年2月3日（土） 会場：飯田勤労者福祉センター

実施概要

長野県が実施した住民主体の地域づくり支援事業『コモンズ支援金事業』を活用して、実践活動を行った地域づくり団体の情報交換・交流と、「地域づくりネットワーク協議会」の仲間づくりを目的とする。

コモンズ支援金事業について

「コモンズ」とは、自然環境、社会基盤等、社会的共通資本を示す言葉で、長野県では、それぞれの地域、あるいは集落にある人間的な絆、それぞれの地域の住民の暮らしを支える仕組みや知恵というものを示すキーワードとして使っている。

<事業概要>

・行政担当 長野県経営戦略局 コモンズ・地域政策チーム

・支援金総額 10億円

ハード・・・3分の2補助

ソフト・・・10分の10補助

・事業の流れ

ステップ1 市町村、地域活動団体（NPO等）による計画づくり

ステップ2 12の事業メニューから選ぶ

ステップ3 実施後に自ら事業評価を行う

(1)参加の感想

三遠南信広域連携をテーマにして講演した。

南信州の中山間地域では、伝統文化の継承が瀕死の状態であり、歴史遺産・文化遺産の保存は、最重要課題といえる。現在、「秋葉街道を愛する会」の活動の一環で、県境を越えて文化交流を実践している。アミの活動においても歴史文化をテーマとして地域連携を図り、全体を盛り上げてゆくことが望まれる。

地元の人が地域のことを良く知らないことが多い。よって、地域の歴史・伝統文化

が埋もれてしまい、保存継承されてゆかないことが大きな問題。

「学び」と「現場」の結びつきが必要。地域資源を見直して歴史・文化遺産の状況を把握し、地域全体で保存継承に取り組むべき。

三地域の観光交流においては、ハードを主とする観光レジャーではなく、地域コミュニティを重要視するスロー・ツーリズムの推進が望まれる。効率優先のサービスではなく、「もてなしの心；ホスピタリティ」が重要。

(2) 意見交換

- ・今後の三地域連携において歴史文化は大きなテーマであり、どのように具体化してゆくか、今後の三遠南信発見・交流フォーラムでも取り上げてゆきたい。
- ・奥浜名湖地域においても歴史講演会などの文化交流を行っている。また、春の観光キャンペーンの一環で、「ホスピタリティ」をテーマに講演会を行う。
現在社会においては、家族の絆や他との人間関係が薄れ、孤立する時代になってしまっている。
奥浜名湖観光連絡協議会では、「のんびり・ゆったりきらめきの奥浜名湖」のキャッチフレーズでスロー・ツーリズムを提唱しており、人と人とのつながりを大事にした顔の見える（分かる）交流、「あたたかなおもてなし；ホスピタリティ」の向上に取り組んでいる。

2. 三遠南信発見・交流フォーラム他について

- ・東栄町の日野地区では、地元の「盆踊り」を題材に伝統文化の見直しを行っている。その他にも文化協会 15 周年記念事業（講演会）への中学生の参加、花木の植樹等、活動をベースに地域を再認識している。現状は、マンパワー不足（高齢化率 48%）といったところだが、東栄町と NPO 法人ボランタリーネイパーズとが実行委員会を結成して、内閣府市民活動団体支援総合事業「花祭りの里」交流プロジェクト（花祭りの見学、山仕事体験、山の健康料理体験等）を推進中。
また、三遠南信地域連携センターと東栄町の連携で、各地区で地域おこしを展開している。
- ・三遠南信地域連携センターでは、学生サポーター、教授、研究者によるアドバイザー制度の立ち上げを準備中。地域づくりに人材を送り出す等、今後、地域の実情に応じて協力を図ってゆく体制を整える。
- ・東栄まちづくり委員会に参画。医療施設民営化について検討するところからスタートした。実施した住民アンケート調査結果は、町の説明会資料となった。
地域資源マップ作成のための地域点検、資源おこしを行っている。
- ・三遠南信発見・交流フォーラムと三遠南信サミットの住民セッションをどのように関連付けしてゆくかが問題である。来年度の住民セッションはどのような展開になるのか、中途半端な展開が心配。
- ・第 3 回目の三遠南信発見・交流フォーラムの企画として、対象エリアを設定し、センターの GIS 活用の地域づくりデータベースとあわせて、住民参加による地域資

源マップづくりを行うのはどうか。現地での点検作業に地域住民も参加してもらい、地域の情報を寄せてもらうことが肝心。できれば3箇所くらいで実施して、比較検討できると良い。

- ・豊橋市制100周年記念映画に関連した地域マップが作られたが、入手しにくい等、情報発信ツールとしての効果が上がっていない。地域情報マップの活用法等も検討する必要がある。
 - ・現在、アミで公開中の「三遠南信資源情報」のブログ開設のPRと情報参加の呼びかけを行うと良い。
 - ・現地点検は、2箇所くらいできると思う。第2回フォーラムの分科会の結果を実地検証、フィールドワークができると良い。奥浜名湖エリア等、熱心なメンバーがいるところを対象に考えても良いと思う。
- サミットの住民セッションは、南信州まで行った後、形が整うのかもしれない。南信州でのフォーラムに、三遠南信自動車道整備に関するテーマを入れられないか。

これらの意見交換より、第3回三遠南信発見・交流フォーラムの企画として、以下の内容があがった。

フィールドワーク（7月～8月頃）を伴うGIS活用の参加型資源マップづくり
候補地 南信州県境地域

ブログ開設のPRと情報参加の呼びかけ

3. その他

情報案内

- ・3月13日、第2回三遠南信地域連携ビジョン検討委員会開催
- ・3月3日、「三遠南信・『みち』の力を考える」フォーラム開催（チラシ参照）
主催：愛知大学三遠南信地域連携センター
国土交通省中部地方整備局東海幹線道路調査事務所
後援：特定非営利活動法人三遠南信アミ
- ・奥浜名湖観光連絡協議会 春の観光キャンペーン実施中（パンフレット参照）
4月21日（土）奥浜名湖シンポジウム開催
テーマ；「奥浜名湖の観光振興と地域づくりを考える」